

## 第1 基本方針

本県の茶業は、平坦で、比較的経営規模が大きい球磨、菊池地域などと、傾斜地で経営規模が小さい上益城、鹿本、八代地域など、県内の北部から南部に広がる中山間地域に茶産地が分散しており、これらの地域で蒸製玉緑茶、煎茶、釜炒り茶の三茶種が生産されている。

茶園面積は、昭和50年代をピークに年々減少しているが、全国有数の茶生産県として重要な位置を占めている。しかし、栽培される品種は茶園面積の8割強を「やぶきた」が占めており、また、樹齢30年を経過した茶園が全体の3割を超えるなど、茶園の一品種独占による作業の集中化、茶樹の高樹齢化による生産性の低下などが問題となっている。さらに、「やぶきた」への集中によって、くまもと茶としてのブランドの独自性が発揮しにくくなっている。

一方、近年の茶価は需要低迷と流通状況の変化などにより、平成11年をピークに約半分程度まで低迷している。

さらに、燃料及び生産資材の価格上昇は生産者の経営を圧迫しており、生産者の減少が進むとともに、後継者不足による担い手の高齢化も進行している。

このような状況の中、生産現場からは、近年頻発する気象災害や気候変動への対策技術の開発、経営安定化のための生産技術が求められている。

## 第2 重要研究事項

### 1 消費者の嗜好に対応した多様な商品づくりへの対応

稼げる茶業経営を行うためには、消費者の嗜好の多様化に対応した特徴ある商品づくりや付加価値を高めた商品づくりが必要となります。このため、熊本県オリジナル品種、多様な商品（加工用原料茶及び品種茶等）の開発に向けた生産技術を確立する。

### 2 経営安定のための気象災害及び生産コスト削減への対応

生産者の経営が厳しい状況のなか、近年の異常気象に伴う凍霜害や干ばつなどの気象災害や火山活動に伴う降灰などの火山災害に対し、安定した品質、収量を確保する気象災害回避技術を開発する。

また、茶価が低迷するなか、収益を確保するためには、生産コストを削減する必要がある。効率的な栽培管理技術を開発する。

### 3 食の安全と環境に配慮した生産技術への対応

近年、食品の安全性に対する関心が一段と高まっており、問題が一度発生してしまうとその影響は大きなものとなります。茶生産においては、特に、異物混入及び衛生管理などに関する対策技術を開発する。

### 第3 試験研究課題一覧

【茶業研究所】

部門	大課題	中課題	予算		小課題	試験期間
			金額	区分		
茶業	1. くまもとの魅力を発信できる新品種の開発・選定	<b>新規</b> (1) 生産性・品質に優れる新品種の選抜・育成	718	県単	耐寒性の高い早生系統の選抜・育成	H29～H31
		<b>新規</b> (2) 茶の系統適応性検定	106	外部資金	茶系統適応性検定試験	H29～H31
	2. 稼げる農業を目指した革新的な生産技術の開発	(1) 茶の病虫害予察	農業技術課	令達	病虫害発生予察調査	S40～継続
		(2) 気象災害を軽減する茶栽培管理技術の開発	1,244	県単	干ばつ発生期の茶園診断・管理技術の開発 凍霜害発生期における新芽耐凍性の簡易検定法の確立 コストを抑えた茶芽洗浄技術の開発	H27～H29 H27～H29 H28～H29
		<b>新規</b> (3) 稼げるお茶づくりのための茶生産技術の開発	932	県単	既存機械を活用した新たな製造技術の開発 オリジナル品種の栽培管理・製造技術の開発	H29～H31 H29～H31

注) **新規**：本年度から新たに取り組む課題

**組替**：課題設定時の内容を組み替えて設定する課題

**延長**：課題設定時の完了予定年度を延長して設定する課題

**短縮**：課題設定時の完了予定年度を短縮して設定する課題